

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	26,560	(千円)
	公 演 事 業	20,625 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,935 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・アーティストによる リサイタル・シリーズ	令和5年5月14日～ 令和6年3月25日	出演：金子三勇士、アーバンサクソフォンカルテット、仲道郁代、菊池洋子、石上真由子、宮田大	目標値	1,200
		小ホール		実績値	1,705
2	群馬交響楽団 上田定期演奏会 -2023 夏-	令和5年6月24日	指揮：秋山和慶 独奏：上野通明(チェロ)	目標値	800
		大ホール		実績値	702
3	群馬交響楽団 上田定期演奏会 -2023 秋-	令和5年11月26日	指揮：ポール・メイエ 独奏：西川智也(クラリネット)	目標値	800
		大ホール		実績値	638
4	群馬交響楽団 上田特別演奏会 オーケストラといっしょ! ~0歳からのコンサート~	令和6年2月11日	指揮：角田鋼亮 ゲスト：横山だいすけ	目標値	1,200
		大ホール		実績値	1,155
5	一高橋多佳子のピアノで贈るショパンの心— ショパン・ザ・シリーズ Season3	令和5年11/24・ 12/23・令和6年1/26	出演・お話し：高橋多佳子 Vol.3 ゲスト：下田幸二(ピアニスト、音楽評論家)	目標値	600
		小ホール		実績値	579
6	まちとつながるプロジェクト プロデュース公演「Before the Dawn 夜明け前 第二部」	令和6年2月 2・3・4日	脚本・構成・演出：志賀亮史 出演：二口大学、山本晃子、快樂亭狂志、山崎到子、永峯克将 他	目標値	240
		大スタジオ		実績値	289
7	公文協統一企画 「松竹大歌舞伎」公演	令和5年7月20日	出演：尾上松緑、坂東亀蔵、中村梅枝、中村萬太郎、坂東新悟、尾上左近	目標値	930
		大ホール		実績値	598
8	木ノ下歌舞伎「勸進帳」	令和5年10月7日 令和5年10月8日	監修・補綴：木ノ下裕一／演出・美術：杉原邦生／出演：リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ 他	目標値	264
		大ホール特設客席		実績値	258
9	MONO 第51回公演「御菓子司 亀屋権太楼」	令和6年3月23日 令和6年3月24日	作・演出・出演：土田英生 出演：水沼健、奥村泰彦、尾方宣久、金替康博 他	目標値	160
		大スタジオ		実績値	129

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタ)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アーティスト・イン・レジデンス 芸術家ふれあい事業(音楽)	令和5年6月11日 ～令和6年1月25日	出演・講師 1. アーバンサクソフォンカルテット 2. 菊池洋子 3. 金子三勇士 4. 石上真由子、江崎萌子 5. 宮田大・山中惇史	目標値	1,960 (公演:540、 クラスコンサート:1,420)
		市内小学校25校 ほか		実績値	2,121 (公演:778、 クラスコンサート:1,343)
2	サントミュージゼ・マチネシリーズ	令和5年4月20日 ～令和6年2月15日	出演 1. 三浦友理枝 2. 徳永真一郎 3. 伊藤悠貴、渡邊智道 4. 大山大輔、折田夏菜 5. 瀧本実里、五十嵐薫子 6. 荒井里桜、津田裕也	目標値	1,800 (公演: 1,550、関連 事業300)
		小ホールほか		実績値	1,734 (公演: 1,388、関連事 業:346)
3	マチとつながるプロジェクト プラスバンドWS&ライブ	令和5年11月5日	出演・講師 BLACK BOTTOM BRASS BAND WS参加・出演者:18名	目標値	300 (公演200、 WS参加者 100)
		小ホール		実績値	170 (公演:152、 参加者:18)
4	レジデント・アーティスト『山田うん』(ダンス1年目)による滞在事業【芸術家ふれあい事業(ダンス)】	令和5年9月27日 ～10月15日	演目:レプリゼント 振付・演出:山口将太郎 監修:山田うん 出演:河内優太郎、山口将太郎、山崎真結、田中朝子 WS参加・出演者:6名	目標値	入場者:60・ 参加者:200 (述べ数)
		大スタジオほか		実績値	入場者:43・ 参加者:211 (述べ数)
5	レジデント・アーティスト『藤田貴大』による 高校生と創る『実験的演劇工房』【芸術家ふれあい事業(演劇)】	令和5年12月4日 ～12月17日	演目:chair 0 作・演出:藤田貴大 アシスタント:青柳いづみ、的場裕美 制作:古閑詩織、林香菜 出演:市内高等学校演劇班	目標値	入場者:120・ 参加者:200 (述べ数)
		大スタジオ		実績値	入場者:94・ 参加者:143 (述べ数)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当劇場のミッションである基本理念「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うへだ」及び第二次上田市総合計画「後期まちづくり計画」に掲げられた、サントミューゼを核とする「育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造」に基づき、施設が有する機能や専門性を活かしつつ、地域を中心にさまざまな機関と連携して、公演事業、普及啓発事業を推進してきた。</p>
<p>公演事業</p>
<p>国内外で活躍するトップクラスの演奏家のリサイタル、準フランチャイズ・オーケストラによる定期的なコンサート、劇団やダンス・カンパニー等と提携した舞台公演を実施。あわせて、歌舞伎、ミュージカル等、多彩で良質な作品を鑑賞する機会を広く提供。令和5年度事業については、年2回の群馬交響楽団定期演奏会に加え、0歳から鑑賞可能なオーケストラ公演を実施。幼少期から音楽と出会える環境作りに努めた。その他公演事業についても、当初の計画に基づき予定通りに実施できた。</p>
<p>普及啓発事業</p>
<p>「芸術家ふれあい事業」と称し、第一線で活躍するアーティストが学校や公民館等を訪問するコンサートやワークショップを実施。公演事業と連動させることで、体験・創作と鑑賞の循環を促した。また、レジデント・カンパニーによる市民参加型のダンス作品の創造と公演、気鋭の演出家を招いて、市内の高等学校演劇班の生徒約30名が参加した舞台作品のワークショップと発表を行う「実験的演劇工房」を実施。その他、普及啓発事業についても、当初の計画に基づき、概ね予定通りに実施できた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>○文化的意義</p>
<p>東信地域の文化芸術振興をけん引する中核的存在として、群馬交響楽団との提携による公演事業及び普及啓発事業の展開や、松竹大歌舞伎の招へいはじめ、地域のニーズに応じて国内の優れた舞台芸術を鑑賞できる機会を継続的に提供している。</p>
<p>○社会的意義</p>
<p>上田市教育委員会と連携し、アウトリーチ事業「クラスコンサート」を実施。令和5年度は市内の小学校全25校で45回のコンサートを行い、1,343名の児童に対してクラシック音楽の生演奏を届けることができた。間近でプロの芸術家の実演に触れることにより、子どもたちの感性や想像力、コミュニケーション能力を育み、表現欲求を引き出している。</p>
<p>また『実験的演劇工房』では、高校生たちがプロの演出家と一つの作品創りに取組むことで、学校や学年を超えた交流が生まれ、表現活動を行うことの楽しさや素晴らしさを感じ、自己肯定感を高める機会ともなっている。いずれも「育成」を基本理念とする当館の社会的意義に照らして重要な事業であり、地域創造が実施した『地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究』（令和5年3月）でも紹介、分析がなされている。</p>
<p>○経済的意義</p>
<p>当館の事業実施による経済的意義については、外部の調査機関が実施した「事業・運営評価調査」（2019年3月）において、開館以来の3年半で「経済波及効果は約50億円に達するなど、地域経済の活性化に寄与している」と評価された。コロナ禍を経て、事業規模が従前に戻った令和5年度は、集客力ある公演事業の際には市外からの来館者が多く見られ、隣接する商業施設の飲食店など利用者が増加している実態があった。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標① 創造し育成する劇場として、アーティストの滞在を通じた作品制作及び公演を実施。滞在アーティストの視点を取り入れた創作活動や新たなプログラムに挑むことで、アーティストの芸術性向上への支援や作品のオリジナリティーを深めるとともに、当市の魅力並びに当劇場の存在価値を広く知らしめる。

目標② 多様な実演芸術に親しむ劇場として、魅力ある「鑑賞」事業の実施数を維持する。

目標③ 作品鑑賞を深めるアナリーゼ、トークイベント、ワークショップなど興味・関心を喚起させる関連プログラムを行う。

目標④ まちに寄り添う劇場として、市内民間劇場との協働及び市民で構成されるレセプションистやサポーターの起用を推進。あわせて子育て世代や若年層の入場者率を高めることで、地域の次世代育成を目指す。

指標① アーティストに対するヒアリングを分析し、達成度と満足度 80%以上を目指す。★目標①に該当
→実績 ヒアリング結果:「達成度」…82% 「満足度」…98% →いずれも達成

指標② 過去3年間の「鑑賞」事業の実績に基づき、公演回数を30回以上に設定。★目標②に該当
→実績 R5年度実績:20回 →未達成

指標③ 過去3年間の関連プログラムの実績に基づき、実施回数を35回以上に設定。★目標③に該当
→実績 R5年度実績:28回(クリエイションに伴う稽古見学及びバックステージツアーを含む) →未達成

指標④ 観客アンケートの4段階評価における「大変満足」「満足」あわせて85%以上を目指す。★目標②③に該当
→実績 R5年度実績:92% →達成

指標⑤ 継続事業を対象に、25歳以下の入場者率を8%以上に設定。目標④に該当
→実績 R5年度実績:13% →達成

普及啓発事業

目標① 創造し育成する劇場として、「芸術家ふれあい事業」によるアウトリーチ及び創作活動などを行う。滞在アーティストの視点だけでなく、鑑賞者及び参加者の状況に応じて事業を推進することで市民自らの創造的な活動を促し、地域の文化振興に貢献する。

目標② 多様な実演芸術に親しむ劇場として公演事業と連動し、作品鑑賞を深めるアナリーゼ、トークイベント、ワークショップ等を行うことで興味・関心を喚起させる関連事業を行う。

目標③ まちに寄り添う劇場として、市内だけでなく定住自立圏地域における事業を展開する他、市民で構成されるレセプションистやサポーターの活用を行う。

指標① 過去3年間の実績に基づき、アウトリーチ等施設外プログラムの実施回数を35回以上に設定。★目標①に該当
→実績 R5年度実績:62回 →達成

指標② 過去3年間の実績に基づき、市民参加型公演の実施数を2公演以上に設定。★目標①に該当
→実績 R5年度実績:4回 →達成

指標③ 過去3年間の実績に基づき、ワークショップ参加者数を200人以上に設定。★目標②に該当
→実績 R5年度実績:312人 →達成

指標④ 参加者アンケートの4段階評価における「大変満足」「満足」あわせて85%以上を目指す。★目標②③に該当
→実績 R5年度実績:90% →達成

指標⑤ 過去5年間の実績に基づき、サポーター、レセプションистの参画人数を100人以上に設定。★目標③に該当
→実績 R5年度実績:74人 →未達成

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

レジデント・アーティストによるリサイタル・シリーズは「芸術家ふれあい事業」と連動して、市内全 25 校の小学校と 9 つの公民館でアウトリーチ活動を行うため、演奏家及び各所との調整のうえ適切なスケジュールを組み、誘客につながると見込まれる公演日を設定している。

群馬交響楽団の上田定期演奏会及び特別演奏会は各公演の期間を空けて日程を組み、オーケストラ公演を繰り返し訪れるファンを獲得している。またリピーターが期待できる「ショパン・ザ・シリーズ」においても、各回の公演時期を慎重に検討し、その都度の広報につとめることで事業成果を挙げている。

演劇事業においては、公演前後の関連プログラムを適切なタイミングに設けることで関心を高め、作品とその背景への理解を促すことができた。

普及啓発事業

音楽、演劇・ダンスにおける「芸術家ふれあい事業」では、単に効率性を求めた期間設定ではなく、小学校や公民館、近隣市町など受け入れ側の状況を把握し、ワークショップなども参加しやすい日程を考慮して、アーティストが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう調整している。

これまで 9 年間にわたって蓄積してきたノウハウにより、事業内容にあった適切な事業期間を設定。レジデント・アーティストやカンパニーが当館を拠点に作品を制作したり、新たな表現や協働に取り組む機会を設けるなど創造拠点としての役割を担うべく、稽古期間を含めて、ここで行われる活動により、期待通りの成果が得られたと考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業費の決算額と要望額の比率(決算額/要望額)が 80%を下回った公演が 9 事業中 1 事業あったが【公演 5】、もとより事業費の規模が小さく、チケット販売が好調につき、予定していた新聞広告を取りやめるなど宣伝費を抑えたことが影響した結果である。

他の公演事業については、要望比の平均が 91%であり、概ね事業費が適切に積算されていたと評価する。

普及啓発事業

要望比が 80%を下回った事業が 5 事業中 1 事業あった【普及 3】。当初計画していたイベント内容の変更に伴い、出演者の滞在スケジュールが短縮されたことが大きな要因と考える。

また、要望比 121%の事業が 1 事業あったが【普及 5】、こちらは当初予定よりも、事業にかかわるスタッフが増員し、滞在日数等が増えたことによる。

なお今後、各事業においては、より精度を上げた事業費を計上するために、新作公演などで経費の積算が難しい場合でも過去の資料などをもとに計上し、可能な限り増減が生じないように留意する。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は基本理念の根底に「育成」を定め、公演事業及び普及啓発事業、人材養成事業のいずれにおいても地域との好循環を目指し、それぞれの事業を関連付けて展開することで「人が育ち、まちが育つ」ことを促している。以下、地域の文化拠点としての機能が顕著であった事業を中心に分析し、自己評価する。

○劇場・ホールと地域がつながる「芸術家ふれあい事業」

音楽事業では令和5年度も、演奏家が地域各所へ赴く「芸術家ふれあい事業」を計画通りに実施した【普及1】。上田市内の小学校全25校で5年生を対象とする「クラスコンサート」は、音楽室や教室など子どもたちの日常の場で、楽器や楽曲についてわかりやすいトークを交え、質問や感想を導く双方向性ある構成で行った。当館から離れた公民館等9つの会場で行う「ふれあいコンサート」は廉価な料金設定で、近隣住民や親子連れが多く訪れ、後にサントミュージゼで行うリサイタルのプログラムを一部交えることで誘客にも結び付いている。同じアーティストがクラスコンサート、ふれあいコンサートを経て地域との関わりを紡ぐことで、ホールでのリサイタルも内容、客層ともに充実していく【公演1】。また、東信地方の文化芸術振興を担う中核施設として、サントミュージゼ・マチネに出演するアーティストのコンサートを上田地域定住自立圏の近隣5市町村の公民館で前日に行っており、バラエティに富む内容で好評を得ている【普及2】。

○アーティストが滞在し、創造と育成の拠点となる

ダンス事業では、コロナ禍のもとに控えていた小学校でのワークショップを久しぶりに行った。レジデント・カンパニーのCo.山田うんのダンサー3名が、子どもたちと身体を動かしながら即興的にダンスを創り上げていく手法で、3-4年生を対象に2校5クラスで実施した。併行して、市民参加型の作品創造に取り組み、6名の市民が参加して延べ9日でダンス作品「レプリゼント」を創作、当館大スタジオでの公演を実現した【普及4】。創作過程ではアーティストが市内各所をリサーチし、福祉とアートにかかわるNPOリベルテと交流して通所者の作品を舞台美術に用いるなど、多様な地域コミュニティとの接点が生まれている。

開館以来、毎年恒例となっている「実験的演劇工房」は、市内の高等学校演劇班の生徒がプロの演出家とガチンコで作品創作に挑む事業で、10回目を数える今年は、マームとジプシー主宰の藤田貴大を招いた。参加した高校生たちの日常と経験をベースとするため、床に通学路のマップをつくり、よく立ち寄る場所やそこでのエピソードを引き出しながらセリフが練られて演出が施されていく。出演だけでなく音響を担う生徒もいて、劇場スタッフのサポートを得ながら技術を習い、約2週間で作品「chair 0」を創作、友人や家族をはじめ多くの観客の前で上演した【普及5】。

○定期的・継続的な事業展開で、観客の育成と拡大をはかる

当館では、高崎芸術劇場を本拠地とする群馬交響楽団を準フランチャイズとして迎え、令和元年度からは「上田定期演奏会」を毎年2回開催している【公演2・3】。さらに本年度は「上田特別演奏会 オーケストラといっしょ！ ～0歳からのコンサート～」と題して、NHK『おおかさんといっしょ』でなじみある歌とクラシック楽曲を交えた構成により、小さな子どもを連れた家族が多く訪れた【公演4】。いずれも公演前には関連プログラムを行っており、楽団員による室内楽の演奏会やアナリーゼワークショップなどで本公演に対する期待感を高めている。こうした取り組みを継続的に実施することで、上田における群馬交響楽団のファンが着実に増えており、オーケストラとともに聴衆も育っていく関係が培われている。

また3年目となった「高橋多佳子のピアノで贈るショパンの心—ショパン・ザ・シリーズ」はトークを交えた創意工夫にあふれる内容で、毎回のプログラムを楽しみ訪れる観客が定着している【公演5】。さらにBLACK BOTTOM BRASS BANDや劇団MONOは開館以来、繰り返し当館を拠点に地域での事業も展開しており【普及3、公演9】、こうしたアーティストがいることで一定の関心層が生まれ、当館事業に対する理解と共感を得られているものとする。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○民間劇場との共同企画で地域の物語を辿る

市街中心部の海野町にある民間劇場・犀の角とは、2020 年度から「まちとつながるプロジェクト」と称して連携・共同による企画を推進し、リーディング公演や戯曲制作ワークショップ等を行ってきた。本年度は、木曾路を舞台とする島崎藤村の歴史長編小説『夜明け前』に取材した演劇公演「Before the Dawn 夜明け前 第二部」を大スタジオで開催した【公演 6】。本事業は、犀の角と劇団百景社が 3 年にわたり取り組んできた「藤村プロジェクト」の一環で、2021 年に「第一部」を犀の角で上演し、2022 年は「藤村と出会う朗読と音楽のひととき」と題した企画を藤村と縁ある近隣地域の拠点で行い、今回、集大成として当館での公演に至ったものである。地域にゆかりの深い藤村作品ということもあり、観客には藤村や小説そのものへの関心ある方々が多く見られ、地元メディアでも大きく取り上げられた。

サントミュージーゼの一翼を担う上田市立美術館では「上田クロニクルー上田・小県洋画史 100 年の系譜」と題する企画展を開催中で、中核となる顕彰作家・山本鼎がパリ滞在中に藤村と親交があったことから、公演に先駆けたトークイベントでは美術館学芸員も加わり、当時の作家たちの活動と交流に目を向けた。複合文化施設として、いまに連なる地域文化の礎を築いた先人の足跡を多角的にとらえ、検証する好機ともなった。

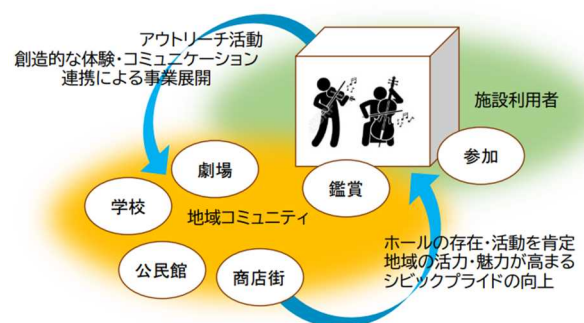
なお、犀の角の代表である荒井洋文氏は、同劇場の活動の成果を『「未来の劇場」の可能性を示唆する』と評価され、令和 5 年度（第 74 回）芸術選奨芸術振興部門において文部科学大臣賞を受賞している。

○劇場間ネットワークを活かし、良質でインパクトあるプログラムを誘致

前年度に引き続き、公文協統一企画「松竹大歌舞伎」を招いて「菊畑」「土蜘蛛」の二演目を上演した【公演 7】。平日の昼公演（7/20）ということもあってか集客は目標値に届かなかったが、客層は近隣地域を含めて広く、歌舞伎ファンを着実に掘り起こしている手応えはあった。また、歌舞伎演目を現代演劇として発信している木ノ下歌舞伎の「勸進帳」を 10 月に上演し、関連企画では主宰の木ノ下裕一によるトークと「道行」ワークショップを行った【公演 8】。木ノ下歌舞伎は上田初登場であったが、代表作の「勸進帳」は「東京芸術祭 2023」（於：東京芸術劇場）のプログラムとして 24 日間のロングラン公演が連日満席と好評を博しており、上田公演でも観客に鮮烈な印象を与えたことがアンケートから伺える。今回は新たな試みとして、ポータブル字幕機による解説付きで聴覚に障がいがある方々にも作品を鑑賞してもらうことができ、これから文化施設に求められるアクセシビリティの方策を探る契機となった。なお、木ノ下裕一氏は令和 6 年度より、まつもと市民美術館の芸術監督団団長に就任することとなり、近隣市の劇場として、今後の連携を約しているところである。

○地域に寄り添う文化施設として、さまざまな場に活動を広げる

開館以来、「芸術家ふれあい事業」を核として、レジデント・アーティストやレジデント・カンパニーが市民との関係を深め、繰り返し、公演やワークショップ等を行ってきたことで、地域のさまざまな場面で文化芸術の力を求める活動が起こっている。そのひとつの事例として、令和 6 年 3 月末をもって他の医療機関に移管した上田市立産婦人科病院の閉院イベントを紹介する（助成対象外）。まず美術館の子どもアトリエでは、同病院で生まれてきた子どもたちに「誕生」をイメージして白いふろしきにアクリル絵の具で手形や色を着けて遊べる体験イベントを行った。制作した作品は病院 1 階のエントランスホールに展示され、そこで 1 月 27 日、ピアニストの高橋多佳子によるコンサートが開催された。同病院で出産した方とその家族、通院中および通院していた方とその家族を招いた 45 分のコンサートには子ども連れの家族が大勢詰めかけ、思い出深い空間で記憶に残る時間を共有した。こうした取り組みが地域から発想されたことも、当市における文化芸術の発展の一端と考える。



(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

○事業運営や研修を通じた専門性の獲得

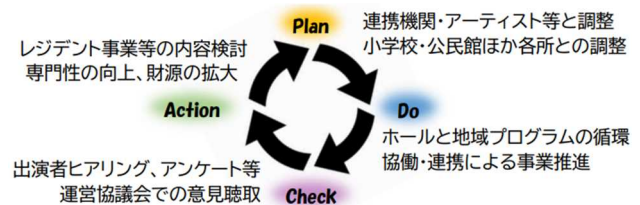
当館は市直営の施設だが、音楽、演劇・ダンスの企画制作に経験豊富な専門人材を置き、舞台技術スタッフを市職員として雇用している。一般行政職員は定期的な異動があるが、共に現場での経験を積むことで知識と制作スキルを身につけており、特に、レジデント・アーティストやカンパニーを迎える事業を通じて得るものは大きい。創作のプロセスに伴走してアーティストの企画意図やプログラム構成のねらいを知り、アウトリーチ活動を受け入れる小学校やワークショップ参加者等との調整を重ねながら、地域における当館の役割や存在価値を認識することとなる。また創造型劇場として、作品上演に向けて舞台美術や音響・照明の細部を詰めていく中で、テクニカルスタッフにも新たな気づきもたらされ、試行錯誤が繰り返される。こうして専門性を磨くことにより事業運営が充実するとともに、当館利用者に対するサービスの質やパフォーマンスの向上にも資するものと考えられる。

あわせて本年度は、文化施設運営や企画制作に携わる人材育成を目的とする研修会に職員を派遣し(地域創造「ステージ・ラボ」札幌セッション_マネジメントコース、岡山セッション_入門コース)、当館における舞台技術スタッフの研修会を開催した(全国劇場・音楽堂等技術職員研修会)。これらの機会を通じて他館の事例に学び、人的ネットワークを築くことで、持続的なホール運営となるよう組織強化に取り組んでいる。

○他領域における施策の連動、市民がかかわる運営体制

直営館の常として異動は免れられないが、それにより人材が循環することで、文化行政における要の施設としての存在感が市政に浸透するとともに、事業運営においても、他部署に異動した職員の助力を得られることがある。まちづくりや観光、教育、福祉などの領域で文化芸術を活かす施策(前述の産院閉院イベントなど)や、当館の事業と連動する取り組みを進めやすいという利点も出てきている。毎年春に行われる新入職員研修では、講義と施設見学に加え、ダンスのワークショップが組み込まれており、同期職員のコミュニケーションを促す一助ともなっている。

ホールプログラムのフロントを担うレセプションистは定期的に市民から公募、選考し、専門家による研修を受けて業務にあたっている。また本年度は、演劇・ダンス事業の制作サポートとして、これまでワークショップ等に参加した経験のある市民の方々に携わってもらった。さまざまな立場から館運営にかかわる市民を広げていくことも、持続性を担保するひとつの鍵であると考えられる。



○安定的な運営を支える多様な財源の確保

当館は近隣類似館に比して施設利用料が廉価であったことから、約半年の周知期間をもって令和5年4月より利用料を上方に改定した。あわせて、従来ワンコインで開催していたマシネの料金を1,000円に引き上げ、60分に時間を延長して内容を充実させるなど、利用者及び観客からの理解を求めた。一年間の運営の結果、貸館利用においては引き続き高い利用率を維持しており、サントミュージゼ・マシネの集客も堅調に推移している。

さらに、地元企業からの支援を拡大すべく「サントミュージゼパートナーズ」の制度を見直し、これまでアウトリーチ活動と教育普及事業に限っていた対象をサントミュージゼの事業全般に拡大し、協賛金額ランクの呼称や特典を改めた。館長を中心に積極的な働きかけを行い、令和6年度のパートナーは35社となる予定である(前年度比218%)。引き続き地元企業を中心に広く呼びかけ、支援の輪の拡大に努めていきたい。